

平成二十六年五月投句

【白野江公園】

遠眼鏡丸き卯浪を近づけて

砂に書く文字を卯浪のさらひゆく

老ひ藤を負うごとく張る若き藤

勝利

麓より通ふ尼僧や余花のなか

光子

熊蜂の影の地上に落ちて失せ

罅をさへぎるものなき山に

休憩所形ばかりの夏暖簾

湖の卯浪古葭の屑を寄せ

間隔を取りつつ鵜の威嚇かな

佳与子

青嵐ひと雨を呼ぶ匂ひして

真理子

水かげろうゆれて彼女の夏帽に

つる薔薇の赤に連なる家二軒

子雀も人間の子もよく跳ねる

展望所までの木漏れ日奢我の花

母の日に妻となる人連れて来し

節子

一山を巡り一枝の余花に会ふ

由紀子

上りには気づかず過ぎ余花の径

砂山にトンネル掘る児夏来る